

分担研究報告書

若年層における性行為感染症を疑った際の受診行動とその関連要因

- グループインタビュー法を用いて -

主任研究者 岡部信彦（国立感染症研究所感染症情報センター）

研究要旨

既調査では、性行為感染症（以下STIと記述）に罹ったときの診断歴が少ない、また、STIの症状がないほど、STIに罹っても受診しない傾向があることが報告されている。また、2001年に、岡山市内で実施した性行為感染症罹患患者への調査や、インターネットを用いた調査では、STIを疑った人の4分の1しか、実際には受診していないという結果が出ている。しかし、若者が、どのようなことをきっかけにSTIを疑うのか、またその罹患を疑った際に、どのような対処行動を取るのか、またその対処行動に何が関連しているのかについて、詳細な研究はなされていない。今後、受診率の低いハイリスクな若者たちへの有効な介入を考えるにあたって、STIを疑った際の受診行動と関連要因の詳細な分析は必須である。

本研究では、グループインタビュー法を用いて、STIを疑った際の受診に関連する要因を対象者の語りから探索、抽出し、今後、量的調査により詳細にすべき項目の抽出を目的としている。インタビューには、女子グループ（グループ1）と男子グループ（グループ2）の2つのフォーカスグループを設定した。これまでにSTIを疑った経験がある16～18歳の若年者の中から、インタビュー内容に対し積極的な意見を持ち、インタビューの承諾が得られた女子5名、男子5名を選定した。グループ1に対しては、STIを疑った際の受診に関連する要因について約2時間のインタビューを実施した。グループ2では、インタビュー途中から参加者の内3名が性感染症を疑った経験についての発言が少なく、条件に合わない可能性がでてきたため、経験が明らかな残りの2名を対象とした個別インタビューに切り替えた。インタビュー内容は、メンバーに承諾を得た上で、言語的および非言語的コミュニケーション内容を筆記、テープ、ビデオで記録し、収集したデータは記述分析をした。

その結果、以下のことが明らかになった。

1. 痛み、痒み、帯下の変化などのはっきりとした自覚症状が、STIを疑ったきっかけとなっていた。またSTIの罹患経験のある友達からSTIの症状について聞いており、知識があったことも、自分がSTIを疑うきっかけとなっていた。
2. STIを疑った際に最も多く取っていた行動は、誰かに相談することであった。相談した相手は、母親、養護教諭、友達、彼など。今回の対象においては、複数の相手に相談するという事は少ないことが伺えた。その他の対処行動は、雑誌、教科書等を見る、我慢する、深く考えないなどであった。
3. 受診前は、保険証をどう親からもらうかなど、診療にかかる金銭面での問題や、内診を含めた診療・治療内容への不安が見られた。受診する病院を選択する際には、同じ産婦人科領域でも、妊娠中絶と、STI治療とでは、病院選択基準が異なっていた。病院で知り合いに会わないか不安であったというような外部からの反応を気にする者もいた。ま

た全ての対象が親、彼、友達などの周囲からの反応を不安要因としてあげていた。

4. 実際に病院を受診した際には、内診されること、他の受診患者からの目が気になったという意見が見られた。友達と病院で会ったことや、母親が受診に付き添っていたことが、気まづかったというケースも見られた。
5. どのような医師か知っている、病院の雰囲気を知っていることは、受診または病院を選ぶうえでの影響要因となっていた。痛みや痒みの症状が、自分自身でどうしようもなくなったことが受診に結びついているケースもあった。
6. STI を疑ったことはあるが一回も受診したことの無い者は、お金がなかったことが受診しないことに強く影響していた。STI の症状を認識していないなどの知識不足、怖いのであまり深く考えないようにしたというような逃避傾向も、受診しない影響要因となっていた。
7. 個別インタビューを行った男性2名のうち、1人はSTIを疑ったきっかけは、強い排尿痛であり、もう1人は、友人から性行為を持ったパートナーがSTIに感染していることを告げられたことと、普段とは違う症状を感じたことであった。1人は、信頼できる先輩からの強いすすめがあり、病院を受診した。もう1人は、強い痛みや、膿が出るという症状もなかったため、放っておくという対処行動を取っていた。

共同研究者 柴辻里香
滋賀県立大学看護短期大学部・
助手
長宗典代
岡山大学医学部保健学科・助手
犬飼昌子
川崎医療短期大学・講師
安酸史子
岡山大学医学部保健学科・教授
中瀬克己
岡山保健所・次長

A. 研究目的

本研究では、グループインタビュー法を用いて、性行為感染症（以下 STI と記載）を疑った際の受診に関連する要因を対象者の語りから探索・抽出し、今後、量的調査により詳細にすべき項目の抽出を目的としている。

B. 研究方法

対象

今回は、男女により体験や意見の相違が予測

されるため、女子グループ（グループ 1）と男子グループ（グループ 2）の 2 つのフォーカスグループを設定した。これまでに STI を疑った経験がある 16～18 歳の若年者の中から、インタビュー内容に対し積極的な意見を持ち、インタビューの承諾が得られた女子 5 名、男子 5 名を選定した（表 1、表 2）。参加者の属性に関する情報（リクルート方法は除く）は、すべて本人の自己申告によるものである。

リクルート方法の詳細については、下記に記す。

グループ 1

女子グループの対象は、産婦人科開業医に「STI を疑った経験を持ち、受診しなかった経験を持つ」という条件に合う 16 歳～18 歳の女性（3～4 名）の募集を依頼した。その結果、4 名が参加を希望した。本研究では、女子の総グループ人数は、5～6 名と計画し、開業医からの紹介以外の対象は、街頭におけるリクルートにより選出することとした。開業医からの紹介による 2 名もリクルートにも参加し、紹介者 1 名と、研究者 1～2 名がペアになり、リクルート

を行った。最終的に、対象の基準に合う者1名が、駅前リクルートにおいて参加に同意し、産婦人科医からの紹介も含め、計5名を選出した。

グループ2

男子グループの対象者は、泌尿器科医からの紹介により募集する予定であったが、参加に同意する者がおらず、対象をすべて駅前でリクルートすることになった。リクルートは2日間にわたり、各日1~2時間実施した。1回目のリクルートにより、16歳~18歳の年齢層を集めることは、困難なことが予測されたため、対象年齢を20歳まで引き上げた。また、予定対象人数5名をすべて直接交渉にて選出するのは難航することが、一日目のリクルートにより予想されたため、直接交渉において、参加を同意したのに対し、知り合いに参加資格を満たし、参加に同意するものがあれば誘い、会場に共に来てもらうことを依頼した。最終的に街頭で3名を直接交渉にて選出し、そのうち1名が、知人2名を誘い、計5名の対象者が会場に集まった。

日時

グループ1:

2002年12月26日(木)16:30~18:30

グループ2:

2002年12月27日(金)16:30~17:30

個別インタビュー:

2002年12月27日(金)17:30~18:30

インタビューは、対象者となる年代層が高校生にあたるため、比較的時間の余裕がある冬休みに設定した。また、若者は比較的午後から夕方集中して駅前に集まってくるため、15時ごろをリクルートの時間帯とし、その後インタビューに移っても帰宅が遅くならないような時間を選定した。

場所

インタビュー会場には、参加者が圧迫感などを感じないよう適度な広さの部屋を選定し、部

屋の中央からやや奥よりに机をサークル状に設定した。観察者と記録者の席は、その後ろ(入り口側)に配置した。

インタビュー方法

言語的、非言語的コミュニケーション内容は、メンバーに承諾を得た上で、筆記、テープ、ビデオで記録した。ビデオ撮影の承諾が得られなかった1名に対しては、筆記でのみ非言語的コミュニケーション内容を記録した。インタビューにはメンバーの匿名性を維持するため番号札を使用し、参加者の各席には飲み物と軽食、またSTI予防に関するPR商品において、気楽に性やSTIについての話をしやすいようにした。インタビューは、事前に半構成的に作成したインタビューガイドに沿って、具体的な質問項目を設定して進めた。

インタビュー内容

- 1)STI予防に関するPR商品についての感想
- 2)STIを疑った際の受診に関連する要因
- 3)STIについて欲しい情報やサービス

インタビューおよび分析担当者

グループインタビュー

インタビュアー:中瀬克己

観察者:柴辻里香、長宗典代、犬飼昌子

結果分析:共同研究者全員

個別インタビュー

インタビュアー:柴辻里香、長宗典代

結果分析:共同研究者全員

事前アンケート(資料1)

対象者の属性を把握するため、インタビュー開始前に無記名にて、アンケート(年齢、職業、家族構成、交際相手の有無・人数、性交渉人数、コンドームの使用頻度)を行った。

倫理面への配慮

本インタビューの目的、内容、記録物、プライバシーの保護についてまとめた「インタビューについての説明書」(資料2)を作成し、インタビュー開始前に参加者に配布し、インタビューアが内容を説明した。参加は自由であり、途中での撤回も可能であることを伝えた上で、書面同意を得た(サインのみ)。

C. インタビューの実際

グループ1に対しては、予定通り約2時間に渡るインタビューを実施した。グループ2では、発言に参加できない、聞いても返答がない、つじつまの合わない発言をする参加者が3名見られ、本研究の対象に合わない可能性が高いと判断し、途中で経験が明らかな残りの2名を対象とした個別インタビューに切り替えた。

D. 分析方法

グループインタビュー法によって収集したデータを以下の手順で記述分析をした。

記述分析とは、グループインタビューで得られたメンバーの言葉や非言語的な表現を、完全にそのまま用いる「記述」を中心に、できるだけ語られた言葉や表情、態度などを加工しない状態で並べる質的分析方法である。

1. 筆記記録、テープ録音をもとにインタビュー内容を書き起こす。その際、ビデオ録画から読みとれる非言語的コミュニケーション内容からも言語的コミュニケーション内容を確認する。
2. 書き起こした内容の中から、STIを疑った際の受診に関連すると判断できた箇所を抽出する。
3. 抽出した内容を1つの状況ごとに整理する。
4. 共通の意味を持つ内容を類型化する。

分析に際しては、内容妥当性を高めるために共同研究者間で結果を繰り返し検討した。

E. インタビュー結果

グループ1

グループの発言の特徴として、語尾をあいまいにして責任の所在を不明確にする、まわりに同意を求めながら発言する、感情に流されやすい、選択を不明確にする、発言内容が単語に近く前後の文脈から意味を解釈しにくい、などの傾向がみられた。そのため、発言を補充しないと意味をなさない箇所については、非言語的コミュニケーション内容により発言を()で、ジェスチャーを< >で補充した。

今回は、インタビュー内容の2)STIを疑った際の受診に関連する要因に焦点を絞って報告する。【 】内の数字は発言者番号を表す。

1. STIを疑ったきっかけ

痛み、痒み、などのはっきりとした自覚症状や、普段とは異なる帯下が見られるなどの症状が、STIを疑ったきっかけとなっていた。またSTIの罹患経験のある友達からSTIの症状について聞いており、知識があったことも、自分がSTIを疑うきっかけとなっていた。対象者すべてが、「痛み」「痒み」などのはっきりとした自覚症状を感じた経験を持っており、これらの症状が、STIを疑った強いきっかけとなっていた。またSTIの罹患経験のある友達からの話が、自分がSTIを疑うきっかけとなっていた。

1) はっきりとした自覚症状があった

- ・ 私は痛みも出たし、(陰部を)見たらもうわかったんですよ。実際腫れたりしてきたんで、絶対そうなんだろうなと思って【2】
- ・ 痒みがすごい激しくて、何やってる時でもすごいそのことしか気にならなくて、それでもうこれはもうやばいなと思って、病院行ったら、(STI)ですって【4】
- ・ 痒かったし、なんか(帯下が)黄色かった【3】

2) 友だちからSTIについて聞いていた

- ・ 痒くて、それで、すごい痒くて、友達がなんか、なってたんですよ。あの～、「痒み

が出て、ブツブツができて」とか言って、
何て言う病気だったかな、コ・・・。(コンジ
ローム) うん、多分それだと思う。それにな
ったとったらしくて、ほんでそういう話を
聞いてとったから。それで、「あ、痒いしブ
ツブツできてるし、エッどうしよう」思っ
て、ほんで、うん、うん【5】

- ・ 友達がなんか同じようなことになっ
とって、なんか(帯下が)きいれえ～とか
言いよって、で病院行ったら性病じゃあ
～って言われた、とか【3】

3) STI を疑う自覚症状があった

- ・ なんか生理じゃないのに血み
たいな感じで出てきて【1】

2. STI を疑った際の行動

STI を疑った際に最も多く取っていた行動は、
誰かに相談することであった。相談した相手は、
母親、養護教諭、友達、医師(電子メールにて)、
彼氏など。今回の対象においては、複数の相手に
相談するという事は少ないことが伺えた。その
他の対処行動は、雑誌、教科書等を見る、我慢
する、深く考えないなどであった。深く考え
ないようにしたなどの逃避行動も見られた。

1) 母親に相談した

- ・ だって自分のお金、(STI に)なりすぎ
てるから自分でお金払えないんだもん。(治療
費)高いんだもん、だって、だって、検査
のし過ぎで最初の方とかすごい高くて、ど
うしようと思って気まずかったけど、お母
さんと二人になった時に話したら、「マジで
あんたアホだ。」って言われて、でも「ちゃ
んと病気治さんといけんよ」って、それで
【1】
- ・ 私、話しやすいっていうか親、若い時に(私
を)産んでるから、逆に言いやすい。なんか、
お母さんって言うか姉妹みたいな感じだから、
すごい言いやすいけど。なんか、普段
から、あんた(コンドーム)付けてやらん

かったら妊娠するんじゃけえ、でも、どう
せあんたお金払えんのじゃけ～な、妊娠と
かしたら言っといでよ～とかって。お金払
うからみたいな感じで言われたりしとった
から、あんまりそんな遊んどったらいけん
よみたいな、普段からこう言ってくれとる
から、逆にこういうことも話しやすかった。
迷ったけど、すごい。でも、そうだったら
言いやすい?最初は考えるけど、やっ
ぱ言っとうとと思う。逆に【1】

- ・ なんか、もう、すごい(痒みが)もう限界
だったんで、親に言ってみたら、お母さん
も(STI に)なったことあるよって言われ
て。で、あ～、みんななるもんなんだって、
感じ【4】
- ・ もう一刻も早く治したかったし、まあそ
んなにすごい言うのが恥ずかしくて、すご
い言うまでに時間がかかったけど、でもま
あどうしても言えない仲ではないから、女
同士だし、だからまあがんばって言いま
した。親とは例えば、私が初めて彼氏が出来
たことを親に言った時に、親がなんかいき
なりコンドームを買ってきて、あんた、自
分の身は自分で守りなよ～って、さすがそ
ん時はちょっとびっくりしたけど、そうい
う話を普段からしてたことがあったので
【4】

2) 養護教諭に相談した

- ・ (パンフレットは)学校で(もらったこと)
あるけど見てない。保健室の先生とかに、
なんか、こんなじゃけど～みてな～(っ
て相談した)。(そうしたら)病院行ってみ
られって言われた【3】
- ・ なんかそれ(不正出血)を保健の先生に言
ったら、それはホルモンのバランスがおか
しいからなりよるんよ、とか言っ
とって、でも一回病院行った方が
良いよって言われて、行ったら
どんどんどんどん、色々と・・・
(STI に感染しているのがわかった)【1】

3) 友だちに相談した

- ・ とりあえず（陰部が）痒かったから、友達に相談して、めっちゃ痒いんじゃないか～言うたら、じゃあ、知り合いの先生おるから相談してみるう～って言うから、その人の番号、メールアドレス聞いて、その先生にメールして、ほんで、あの痒いんですみたいな感じで、ほしたら、なんかあの、じゃあ、来てみますう～言うて【5】
- ・ 友達があそこ（の病院に）行ったことあるから、行きたいんだけどって言うたら、「ああ、私もほんじゃ行こうかな、そろそろ。」友達に行きたいんだけど、それってどこ行ったって聞いたんですよ。もし良かったら付いて来てくれん？って言った【1】

4) 彼に相談した

- ・ 彼にはすぐ言ったんですよ【2】

5) 教科書や医学書で調べた

- ・ とりあえず、学校の保健の教科書があるじゃないですか？あれをパラパラとめくって調べました。（でも）詳しくなかったです。名前ぐらいしか【5】
- ・ お母さんあれ、宇多田ヒカルがなったやつ、（卵巣嚢腫）そうそう、それでなんかそういう系の本いっぱいあるんですよ。医学（書）みたいなのがいっぱいあるんですよ、家に。それでいっぱいあったから、それ普通に見た【1】

6) パンフレットをみた

- ・ 自分は（STI のパンフレットを）もらった時はなんも自覚なかったから見なかったけど、自覚（症状が出て）、あっ私そうかなって思って学校でもらったわと思って（思い出して）、探して、あっこれこれって見て、あ、やっぱ私これかもしれんって、思って【5】

7) 雑誌で調べた

- ・ 私雑誌もみた【2】
- ・ （雑誌は）見やすい。なんぼか？（信用でき

る）【5】

8) 我慢した

- ・ ほっといた【3】
- ・ 治るかなって思って放っといたら治った。痒かって、でも放っといたら、いける、あっ大丈夫かな～と思って、我慢したら全然大丈夫だった【1】

9) 深く考えないようにした

- ・ 深く考えんかった【1】
- ・ （深く）考えんよな。考えん【3】
- ・ なんも考えんかった。いつか治るかな、みたいな【1】
- ・ まいっかとか【1】

3. 受診する前に気になったこと

受診前は、保険証をどう親からもらうかなど、診療にかかる金銭面での問題や、内診を含めた診療・治療内容への不安が見られた。受診する病院を選択する際には、同じ産婦人科領域でも、妊娠中絶と、STI 治療とでは、病院選択基準が異なっていた。病院で知り合いに会わないか不安であったというような外部からの反応を気にする者もいた。また全ての対象が親、彼、友達などの周囲からの反応を不安要因としてあげていた。

1) 保険証をどうやって親から借りようか悩んだ

- ・ 親にどうやって保険証もらおっかなと思って、手の病院行ってくるう言うて、ほんで、保険証もらって、ほんで行って病院に。そしたら、うーん、こういう病気って言われて。あ、そうですか言うて、うん、（治療費が）高いから（保険証だけはもらった）【5】

2) 治療費がどれくらいかかるか心配だった

- ・ どうしよう（と思った）ほんま、もう保険証なかったら、（お金が）何倍もかかるじゃないですか。どれくらい（治療費が）かかるんだろうとか、治療長くかかったらもっ（お金）いるなとか。親は結構厳しいん

ですよ。だから、言えなくって、彼氏いることも言っていないですよ。だから、そんなん言えないから、ほんと、秘密にしたかった【2】

3) どこに受診しようか悩んだ

- ・ (妊娠の時と STI の時とは受診する病院が) 違う、多分。違うと思う【1】
- ・ なんか、暗い所でいいんよね。暗い所で、陰気臭いところでいいんだよね、墮ろす時。ホント【1】
- ・ 妊娠しとったらそういう (暗い) とこの方が良くない、逆に?【1】
- ・ 全然他の人がおらんし【3】
- ・ 雰囲気、どうせ、一回しか行かないじゃないですか? 妊娠、墮ろすの、一瞬じゃないですか【1】

4) 治療法が気になった

- ・ 私、治療法 (が気になる)。だって嫌なんだもん。薬とかだったらいいけど、それ以外だったらヤダもん。あ、(病院)行かんところって思ってしまう。逆に、あっ怖い【1】

5) 内診されるのがイヤだった

- ・ (病院に行く前から) あの~、そういうの (内診) はわかってたんですよ。それで、あ、(足を)開くんじゃ~って思って、わかってて、でもうん、しょうがないか~とか【5】
- ・ やっぱあの~、そういう所に行ったら、(陰部を)見せないといけないのかなと思って、それはすごい抵抗があったんですけど、でも、もう、まあ~しょうがないかな~と思って。腹くくって【4】
- ・ 友達の付いて行ったことあるから、ちょっとあのベッド (内診台) に足を置くところとか、あのあれ見た時はちょっとひいた。(でも)なんも考えなかった【3】

6) 病院で友だちや知り合いに会わないか心配だった。

- ・ 私も、同じ学校の子には会いたくないって

思うじゃないですか。んで、うちの高校に (産婦人科の)先生が講演に来て下さって、その後だったから同じ高校の子も行っとなじろなと思って、会いたくないなって思ってたんで、出来れば放課後とか、5 時からの部だったらおるかもしれんと思って、一回学校休んで、初めて行った時は、午前中の方に行こうと思って、だから学校も休んで一人で行ったんですよ。次行った時も、それも午前中で学校が終わって、午後 2 時までやってると思うんですけど、だから急いで午前の部に行こうと思って、学校終わったあとすぐ行ったんですよ。その時だから、高校生の子も他にいなかったし、だから高校生見たことないですね【2】

7) 親の反応が気になった

- ・ やっぱり性病とかってというのは、やっぱり、男女の行為じゃないですか、それで、やっぱり、そういう病気で親は、う~ん、たぶん心配して「大丈夫?」とは言ってくれるんじゃないけど、それよりも前に、なんで (コンドーム) つけんのんとか、なんかよく、なんて言えばいいのかわからんけど、(親になんて言われるか) こわい【5】
- ・ STI 自体がいいように思われてないから、今、いいように思われてないじゃないですか、誰からも。なった人だったらわかるから良いけど、なったことない人とかに良いように思われてないから、言っても..ね、今はまだ、どっちかと言うと親と相談出来るような形が一番いいかもしれない【1】
- ・ 親とか (だとして) もやっぱ言いにくいから【1】
- ・ やっぱり怒られるっていう...【5】
- ・ 怒られるっていうイメージがある【1】
- ・ 言えない。そう親による、親、厳しいから【2】
- ・ 親によるよね、やっぱ、厳しかったら、言わないよね、絶対【1】

- ・ なんか、(親に)心配かけたくない。だからそういう病気になって、お金は私の場合そこまでかからなかったし、自分で払える範囲だったから払ったけど、やっぱり心配はかけたくないなと思って、結局は言うたんですけど、言いました。なんか診察券を見られて、「どこの病院、何の病院行ってるの？」って言われて、あっもうええわ、言おうと思って、こういう病気だからって言って、「あっそうなん」って、そしたら全然普通に、「大変じゃな〜」とか言われて、人ごとのように。人ごとだけど、「大変じゃな〜、頑張られ、気をつけられよ〜」って、ただ、それだけだったけど。全然怒られもせんし【5】
- ・ 大人が考え方変えてほしい。親の世代とか、もう全然考え方とか違う【1】
- ・ 自分から言うのはイヤだ。向こう(親)から言われたいんだって。自分から言うのも嫌なわけよね。どういう反応返ってくるか考えるから【1】
- ・ だからオープンにしてくれたら、全然こういう病気なんよって言ってくれるけど、全然そういう話もしたことなかったり(したら)そう、言いづらい【5】
- ・ (パンフレットは)あっても親に見られたくない。見られたくない。「なんでこんなあるん?」「学校からもらったもん、なんでこう置いてある」みたいな上に、突っ込まれたら嫌だ。友達が言ってた。突っ込まれたくないって、親に。これが家にポンとあって、突っ込まれたくない、言ってましたよ【1】

8) 彼の反応が気になった

- ・ 彼氏に汚いって思われるんじゃないかとか【5】
- ・ 彼氏に言えなかった、なかなか【1】

9) 友だちの反応が気になった

- ・ 友達にもちょっと引かれるかなと思う。

えっ、あの人って(STIに)なったらしいよとかって言われるのが嫌だな。すごい最初の方とかすごい悩んで【1】

- ・ あたし(友だちに相談)出来なかった。(友だちは)言うもんね、周りに。周りに言う言う、どんどん広まるみたい【1】

4. 受診した時に気になったこと

実際に病院を受診した際には、内診されること、他の受診患者(特に妊婦)からの目が気になったという意見が見られた。友達と病院で会ったことや、母親が受診に付き添ったことが、気まずかったというケースも見られた。

1) 内診されるのが恥ずかしかった

- ・ 実際、(内診台に)乗るじゃないですか。あれすごい恥ずかしかったもん。うっそお〜って【5】
- ・ 最初にえっどうしようって思ったもんね、あれ(内診)。うわあ〜マジで、みたいな。最初に、どんな治療するんですか、聞いた。(内診の話聞いて)えっ、ヤダ、行きたくないみたいな、でも治さんかったら〜みたいな【1】

2) 他の受診患者(妊婦)の目が気になった

- ・ 妊婦がいっぱいおるのが、なんかイヤだった。白い目で見られそう。そう思っって、こんなに高校生がみたいな感じで見られるのが、すごいイヤだった【5】
- ・ 高校生が何しに来たんみたいな、言われるかなっとか、思われるかなっとか。けど、(診察室に)入って出たら、なんでこんなにいるの(って)、向こうに(待っている患者に)想像されるのが嫌だった【1】

3) 病院で友だちや知り合いに会って気まずかった

- ・ あそこ(病院に)行って出たら同じ学校の後輩がいたとか。すごい気まずい。えっどうしようとか思って。えっ、あ、嫌だこっつて思った、一瞬。同じ学校の子とか気

まずくない？【1】

- ・（同じ学校の子に会うと）気まずい【5】
- ・（知ってる子に会ったらどうしようとか）それはあんま考えなかった。でも私がラストに行った時に、友達が座って、ハッと行って、「何しょん？」って、「いやいや、検査検査」とか言って。なんか、治ってそれで一応診てもらおうとか言って、来たんよ～とか言って。でも別にそんなに仲良かったし、その子に（STI のことを）相談しとったから、だから全然平気だった【5】

4) 母親が受診に付き添い気まずかった

- ・（受診には）親が付いて来た。なんか複雑な・・・なんか。出来たら、1 番さんみたいに、送り迎えだけだったらよかったけど【4】
- ・気まずい。親がいると【5】
- ・（受診した病院と）家近かったから、お母さん送り迎えしてました。（お母さんは病院に）入ってない。お母さんあそこ行ったことあるから、入りたくないって言われて【1】

5. 受診した理由

どのような医師が知っている、病院の雰囲気を知っていることは、受診または病院を選ぶ上での影響要因となっていた。痛みや痒みの症状が、自分自身でどうしようもなくなったことが受診に結びついているケースもあった。

1) どのような医師が知っていた

- ・どんな先生なんかな？とか。私も、5 番さんみたいに、メールアドレス聞いて、それにその先生が高校に講演に来てくださったんで、こういう先生だってわかってたし。だから、あああの先生なんだな～って、メールしてみて、話しやすいな～と思って。じゃあ、行ってみようかなって【2】
- ・医者、あの先生の講演を聴いた後に自分が気づいたんで、行くんだったらあの先生のところに行こうと思って、相談は友達とかにはなんか言えないな～と思って、行くん

だったらもう、一人で行くか、彼に付いて来てもらうかって思って。実際、一人で行ったんですよ。彼はあの社会人なんで、会社あったんで【2】

2) 病院が受診しやすい雰囲気だった

- ・なんか、病院自体が行きやすい病院だったから、それで行けた。他の病院だったら、やっぱりなんか、行きたくないなって思うけど、その病院はすごい入りやすいし、んで友達と行った時に、全然普通じゃがあ～と思ったから、それで行きました。（先生の）顔は見たことはなかったんですけど【5】
- ・どういう診察室とか、待合室とかの写真とかを学校の講演とかで、映像で見せて下さって、高校生も来てるんだよっていうのもいっとったんで【2】
- ・普通に私服の方がいいんかなとかって思ってたんじゃけど、あ、これだったら制服でもええわと思って。もっと変装とか～とかって、ちょっと思ったけど、でもせえ～んぜん普通に入って【5】
- ・（病院が近いとか遠いとか、関係）ないです【5】
- ・（自宅から）近くなくても、やっぱり入りやすいとこの方がいいし【5】
- ・そういう病気だから、なんて言うんじゃろ、うん、高校生なのに【5】
- ・妊娠したんじゃろうとか、性病だったんじゃろうとか、思われるんかなとか。墮ろすのかしらとか【1, 2, 5】
- ・制服で行って見られたことありますよ。すごい見られる。えって感じで、そやって見られる【1】

3) 家の近くに知っている病院があった

- ・（病院は）近いところ優先で。近かったし、なんか何回か見てたから、そんなに、どこに産婦人科があるとか全然知らなくて、とりあえずそこは知ってたんで、自分の中では、なんか、そこが【4】

4) 友だちが通院していた

- ・ (白い目で見られるとか)一瞬考えたけど、でも、友達とか行ってるし【1】
- ・ もし良かったら(病院に)付いて来てくれん?って言ったら、「ああ、私も行きたいから行くわ。そろそろ行かんとヤバイかな」みたいな感じで。繰り返してるんですよ、その人は、なっちは、なっちはみたいな繰り返したから。「そろそろ私もヤバイかもしれん、最近そういう症状が」とか言い出したから、行こうって言って、その友達に付いてきてもらったら、もう一人の子も行くって言って、結局三人で行って【1】
- ・ 友達あっこ(産婦人科)行っとなよな~とか、そういうぐらい【5】

5) 痒みや痛みが我慢できなかつた。とにかく治したかった

- ・ もう、(痒みで)集中出来なかったから【4】
- ・ 私も痛みで、もう痛み~って感じだった。すごい痛くて、普通に座れなかったんですよ。こんな感じでちょっと半分で座らないと、もう耐えれなかったんで、こんな座り方してたら腰も痛くなるし、学校でもなんか変だし【2】
- ・ (症状は)いやあ~、はっきりしてましたね。痒くて、普通にこう座って、学校で椅子に座るとるにも痒いから、正座して座って、それで、こうそれでも痒いからこう、こう<腰を浮かせるようにしてみせる>【5】
- ・ とにかく治して欲しかったんですよ、だからもう痛かったし、絶対性病だって。治療法とか、こういう本とか見て、ヘルペスは初めの軽かったら薬だけで治るって書いてたから、じゃ早めに行って早いうちに治してもらわにゃいけんわと思ったんで、(病院に)行って。見せるのも、もう抵抗なかったですね。見せなかって、違う病気で、違う薬とか出されても困るし。こういうヘル

ペスは違うかもしれないけど、ほって、放置してたら、将来妊娠とかにも影響するのもあるって聞いたから、それは嫌だったんで、とにかく治す【2】

6. 受診しなかつた理由

STI を疑ったことはあるが一回も受診したことのない者は、「お金がなかった」ことが受診しないことに強く影響していた。「STIの症状を認識していない」などの知識不足、「怖いし、あまり深く考えないようにした」というような逃避傾向も、受診しない影響要因となっていた。

1) お金がなかった

- ・ なんか、子宮ガンになるってとか言われて、こえ~とか思ったけど金がなかった【3】

2) 受診したのが親にばれたら困る

- ・ 保険証も、(親に)バレたら気まじい。病院のハンコとか【3】

3) 考えるのが怖かつた

- ・ 考えるのが怖い【3】
- ・ 考え出したら悩んでしまうから。まいつか【1】

4) 症状に慣れた

- ・ うん、だいが、長いよな、でも慣れる。日常生活みたいな【3】

5) 放置していたら治った。治ると思った。

- ・ カンジタとか多いですよ。多いけど放っておいたら治ったからもういいんかなってかかって、友達が。だから私、病院行かなくても治るかなって思った【1】
- ・ その人が前から言いよって、うちも痒いんじゃないけどみたいな、ほっときゃ~なおるじゃろ~【3】
- ・ (ほっときゃ~なおるじゃろ~)みんなそういう【1】
- ・ 自分は、自分が感染してないって思いたいたから、いい方がいい方に考えて、まっ治るんだったら、それでいいやみたいな【1】

6) STI は自分と関係ないと思った

- ・ 結構みんな、友達が毛ジラミになっと思って、痒い痒いって言いよって、2人おって、一人は病院行って毛ジラミって言われたからなんか(陰毛を)剃られたらしいんよ。で、じゃけえ、それかなと思って、その連れも剃ったら治ったって言いよった。(自分は)そこまでの勇氣は出んかった。それじゃないと思った。自分のことと別に考えた【3】

7) 受診する時間がなかった

- ・ 行く暇なかったし【1】

8) 友だちに付き添った病院の雰囲気怖かった

- ・ 友達に付いてったとこ(病院)が2個あって、で、どっちかかなあ~? いっこの方が良かった。もういっこの方、こえかった。マジ、こわい、古い。もうこえ~中も入ったけど、もうマジ怖い。もう一人じゃ入れん。マジこえ~。(先生は)見た。喋った。おじいちゃん。おもれえ~おじいちゃん。患者がおらんかった。古い、あと、なんか部屋に入って狭くて。こ、怖かったあ~【3】

9) STIの症状を認識していなかった

- ・ なってると思わなかったもん、自分で、たまたま言うか、なんか痒いとかそんなの(自覚症状)も全然なくて、おりものとかもそんな自分でわかんないじゃないですか。「おりもの・・えって、これがそうなの?」みたいな、どっちかって言うと。STIの、あっこんなおりものなんだ、みたいな。見とっても色があるとか言われても色が普通にある人もいるし、もとから。だから全然わかんなくて、で【1】
- ・ 嘘と思ったもん、えっ嘘やろう、そんなことないって。なってると思わなかったもん。痒いとかも何もなかったし、おりものって普通じゃない?みたいな【1】
- ・ これが友達にある? プツプツみたいなのある? どうしよって言ったら、あっ私もあるよみたいな感じで言われたんですよ。友達

に。じゃ普通かって思って、全然気にしてなくて【1】

個別インタビュー

グループ2の3番と4番を対象に実施した個別インタビューの要約を下記に示す。

対象者(番号3)は、「強い排尿痛」があったことをきっかけにSTIを疑い、STIに罹ったことのある信頼できる先輩に相談した。その先輩より、「とにかく早く受診しろ」とのアドバイスを受け、開業医の紹介を受けた。その開業医を受診したが、継続受診しなかったため、治癒しなかった。受診し始めてから、雑誌等の情報で、「性病を治さんと、肝臓がんになって死ぬこともある」「性病を放っておくとAIDSになる」との情報を得た。そして、「はよ治さんと」思った。その後、総合病院を受診し、まとめて薬をもらい治した。初めて受診するときは、恥ずかしくて親にも言えず保険証はもらわなかった。総合病院受診時には、治療費の都合上、親に「保険証ちょうだい」といって、病気に罹ったことがばれた。

対象者(番号4)は、彼女以外の不特定多数のパートナーと性行為を行ったあとに、その行きずりのパートナーがSTIに罹っていることを複数の友人から告げられ、それをきっかけに自身へのSTI感染を疑った。なんか「痛いような、痛くないような、普通とは違う症状」があることを感じた。STIにかかると激しい痛みがあったり、膿が出ることを聞いていたが、自分にはそのような症状はなく、2週間くらいで違和感も消えたため、結局受診はしなかった。症状がなくなるまでは、パートナーとの性行為は行わなかった。母親には相談し、「遊びすぎやろ、ひどくなったら相談するように」といわれた。

F. 健康危険情報 なし

G . 研究発表 なし

H . 知的所有権の出願・登録状況 なし

< 参考文献 >

1)安梅勅江(2001) . ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法 . 医歯薬出版 .

2)山崎浩司他(2002)、若者の HIV/STD 関連知識・行動・予防介入に関する研究 - 研究フォーカス・グループ・インタビューを用いた予防介入の評価検討(地方 B 県) - .平成 13 年度 HIV 感染症の動向と予防介入に関する研究報告書 , 303 - 311 .

表 1 参加者の属性 (グループ 1)

番号	年齢	職業	家族構成	リクルート方法	交際相手の有無・交際人数	性交渉人数	コンドームの使用頻度
1	17	学生	父、母、姉	開業医からの紹介	無 過去 15 人	5 人	時々使う
2	18	学生	父、母	開業医からの紹介	有 1 人目	1 人	使ったことがない
3	18	学生	父、母、兄、祖母	研究者が街頭でリクルート	有 11 人目	約 5 人	時々使う
4	17	学生	父、母、妹	開業医からの紹介	無 (いない歴 1 年) 過去 3 人	2 人	必ず使う
5	17	学生	母、姉、祖母	開業医からの紹介	有 2 人目	1 人	時々使う

表 2 参加者の属性 (グループ 2)

番号	年齢	職業	家族構成	リクルート方法	交際相手の有無・交際人数	性交渉人数	コンドームの使用頻度
1	16	学生	父、母、姉	3 番からの紹介	無 過去 3 人	無回答	必ず使う
2	16	無回答	母、兄	3 番からの紹介	無回答	3 人	時々使う
3	16	無回答	父、母、弟	研究者が街頭でリクルート	無 (いない歴 2 ヶ月) 過去 7 人	約 30 人	必ず使う
4	17	仕事	母、弟	研究者が街頭でリクルート	有 20~30 人目	15 人	時々使う
5	18	学生 仕事	父、母、姉	研究者が街頭でリクルート	有 20~30 人目	10 人	時々使う